科目ナンバリング	U-LAS40 20003 LJ26						
授業科目名<英訳>	生活習慣と生体機能障害 Lifestyle and Human Body Dysfunction			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　藤田　義人		
群	健康・スポーツ科目群	分野(分類)	健康・スポーツ科学(発展)	使用言語	日本語		
旧群	D群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金1	配当学年	全回生	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

本講義では、生活習慣と生体機能の関連を基盤に、ヒトの主要な生理機能とその破綻によって生じる疾患を科学的に理解する。呼吸、循環、代謝、消化、神経、免疫などを系統的に学び、疾患の発症メカニズムや予防・治療の基本を体系的に把握する。「健康科学I」で扱う健康維持・予防の内容を発展させ、最新の医学的知見を取り入れながら、考察とディスカッションを通じて病態理解を深めることを目的とする。「健康科学I」を必須とはしないが、両講義を併せて履修することで、健康を守る視点と病気を理解する視点の両面から、健康科学を総合的に学ぶことができる。

[到達目標]

本講義を通して、ヒトの主要な生体機能の構造と役割を理解し、それらの破綻によって生じる代表的疾患の基本的な病態を説明できるようになることを目指す。また、生活習慣が疾患発症に及ぼす影響を科学的に考察し、医学的知見に基づいて予防や治療の基本概念を理解できる能力を養う。

[授業計画と内容]

原則として、以下のトピックスを、フィードバックを含めた全15回の授業で説明する。ただし、最近の話題や新しい知見、受講生のリクエストなどに対応してトピックスを追加したり、順序を入れ替えることがある。授業の進行が必ずしもトピックスの番号順にはならないため、毎回の授業時に次回の授業の内容を予告する。

1.生体機能と恒常性
2.呼吸のしくみと疾患
3.循環と血圧調節
4.血液と酸素運搬
5.消化・吸収と消化器疾患
6.エネルギー代謝と糖尿病
7.脂質代謝と動脈硬化
8.腎臓と体液バランス
9.神経・内分泌とストレス応答
10.免疫と感染症
11.骨・筋肉と運動機能
12.がんと老化
13.ストレスと身体反応（内科的メンタルヘルス）
14.まとめ：生活習慣と生体機能障害の整理

フィードバック方法は別途連絡する。

生活習慣と生体機能障害(2)へ続く↓↓↓

生活習慣と生体機能障害(2)

[履修要件]

生活習慣病をはじめとする疾病の予防や治療に関心を持ち、自らの生活や将来の学び・職業選択に活かしたい学生を主な対象とするが、専門分野や学年は問わない。健康科学Ⅰの履修を必須要件とはせず、必要な基礎事項については本授業内で適宜補足する。授業の具体的な進め方、評価方法、履修上の注意点等は第1回目の授業において説明する。

[成績評価の方法・観点]

平常点（ミニレポート、ミニテスト、60点満点）と期末レポート（40点満点）を総合的に判定する。

成績評価の詳細は第1回目の授業で説明する。

[教科書]

参考資料を授業中に配付，あるいは指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は不要、履修状況をレポートで評価

[その他（オフィスアワー等）]

講義内容に関する質問や意見を歓迎する。

[実務経験のある教員による授業]

①分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

②当該授業科目に関連した実務経験の内容
内科医師(総合内科専門医、糖尿病研修指導医、内分泌代謝・糖尿病内科領域 研修指導医、病態栄養専門医)として診療業務や学生・若手医師の指導に従事。これまでに医学科、人間健康学科の教育・講義を担当。

③実務経験を活かした実践的な授業の内容
生体機能の破綻と疾病の成り立ちを具体的な症例やエビデンスと関連づけて解説する。受講生が病態生理を理解し、科学的根拠に基づいて疾病予防や治療の基本概念を説明できるようになることを重視する。

[主要授業科目（学部・学科名）]